

健康 ぷらざ

糖尿病のスティグマ

— 糖尿病を誤解していませんか? —

公益社団法人日本糖尿病協会 理事長 清野 裕

企画：
日本医師会

No. 567

名称のイメージによる誤解

日本の糖尿病人口は、予備群を含め約2,000万人います(厚生労働省、令和元年)。成人の4人にひとりが関係する一般的な疾患です。しかし、糖尿病には「生活習慣病」の語感からくる不適切なイメージがつきまとい、「食べ過ぎや不摂生が原因」「自己管理ができていない」などの偏見が生じています。また就学、就職、結婚などのライフイベントで不利益を被る事例も報告されています。



悪循環を断ち切ろう

こうした社会の偏見は、糖尿病のある人に「負の烙印^{らくいん}=スティグマ^{*}」を押します。そして、スティグマを恐れるあまり、糖尿病があることを隠し、適切な治療機会を失うことで、合併症を発症してしまうという悪循環をもたらします。

この悪循環は、皆さんが糖尿病を正しく理解することによって解消できます。例えば、糖尿病のある人の寿命は短いでしょうか？ 答えはノーです。2001年から10年間の糖尿病のある人の寿命は、30年前に比べて男性で8.3歳、女性で10.2歳も延び、日本人全体と比較しても大差はなくなっています。

*スティグマ：周囲から否定的な意味づけをされ、不当な扱いを受けること。



糖尿病があっても いきいきと暮らせる社会に

今の糖尿病医療は薬剤の選択肢も増え、個人の状態にあった治療が可能です。適切な血糖管理を行えば、糖尿病とともに一病息災、病気の無い人と変わらない生活ができます。

糖尿病は、体質や環境(ストレス)なども含めて複数の要因で発症します。決して自己責任論で語る疾患ではありません。誰もが発症する可能性があるからこそ、正しく理解し、糖尿病があってもいきいきと暮らせる社会をつくりましょう。



日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



日医
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。